

ラオス国乳児死亡とビタミン B₁ 栄養

木村美恵子^{*1)}, 武田隆久¹⁾, 櫻井美樹²⁾, 中野博行³⁾, 佐竹善誉³⁾, 浦部大策³⁾

(¹⁾ タケダライフサイエンスリサーチセンター, ²⁾ 東京女子医大国際環境・熱帯医学教室, ³⁾ 聖マリア病院)

低開発地域ではいまだ乳児死亡率が高い国が多く、その背景として、栄養不良や感染症が考慮されている。国連人口基金(UNFPA)の統計(2006年)によると、東南アジア地域では、ラオス、カンボジア、東ティモール、ミャンマーなどにおける乳児死亡率が高い。ラオスの乳児死亡率は 82 人/1,000 人と高い。中でも、近年のラオスにおける調査では乳児の死亡時期が出生後 1~3 ヶ月に集中していること、死亡時の臨床症状などから、脚気様の死亡の可能性も疑われている。これとともに、妊産婦死亡率も高い。今回、ラオスで妊産婦を対象とした調査を実施する機会を得た。ラオスでの主要な食物は穀物で、副菜は極少量であり、また、特殊な食習慣(食物タブー)による偏った食生活の状況がある。この偏った栄養摂取状況下で、VB₁ 欠乏は広く分布している可能性があるが、ラオス住民の VB₁ 栄養状態(VB₁ 濃度)に関する報告はほとんどない。1 歳未満児を有するラオス人の授乳婦を対象に、VB₁ 栄養評価の指標として血液中および母乳中 VB₁ 値の調査を行った。

調査は 2006 年 10~11 月、ラオスのカムアン県で実施した。対象は、本調査に同意が得られた 1 歳未満児を有する世帯の母親 50 名 (26.2 ± 5.9 歳)とした。食事、経済状態など生活全般にわたる聞き取り調査も実施した。血液および母乳を採取後、ただちにトリクロロ酢酸にて除タンパク処理、凍結、日本へ郵送した。血液中および母乳中総 VB₁ 濃度測定は、木村らの HPLC-ポストカラム蛍光法にて測定した。本調査は、ラオス国保健省の倫理委員会より承認を得て実施した。

VB₁ 濃度は血液中 18.9 ± 5.5 ng/mL(参考値 50 ng/mL)、母乳中 72.7 ± 32.9 ng/mL(参考値 100 ng/mL)と、非常に低値を示し、VB₁ 欠乏状態が示された。血液中と母乳中 VB₁ 濃度との間に、有意な正の相関が見られた。本調査結果より、母親が低 VB₁ 栄養状態にあることが明らかになり、母乳を栄養源とする乳児の死因として VB₁ 欠乏による脚気様の死亡も考えられた。当地方では、主食に餅米、副食にはわずかの野菜など食物の種類が限られており、基本的に貧困による食糧不足がある。その上、食習慣に伝統的な出産後の摂取食品タブーもあり、母体の VB₁ 低値の一因となっていると考えられる。VB₁ 欠乏による乳児死亡のみではなく、タンパク栄養などを含む栄養全般にわたる生活習慣改善教育への取り組みが期待され、人類の宝である乳児の死亡軽減への具体的対策が必須と考えられる。ちなみに、本調査結果を踏まえ、ラオス国においては、ビタミン B₁ 栄養の実態調査と改善対策が国家プロジェクトとなった。